

# アジア・太平洋地域宇宙機関会議オンライン2020 の開催報告について

2020年11月27日

文部科学省研究開発局宇宙利用推進室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,

CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# アジア・太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF) Asia-Pacific Regional Space Agency Forum

## 概要

- アジア・太平洋地域における宇宙利用・協力の促進を目的とした、同地域最大規模の宇宙関連会議。
- 1993年に設立以降、文部科学省、JAXA及び開催国の宇宙関係機関の共催により、ほぼ毎年開催。
- メンバー国・地域や機関を拘束しない、オープンな会議体として、各国の政府機関、宇宙関係機関、大学・研究機関、民間企業、国連等の国際機関で構成。

※参加機関・参加者：第1回 13カ国60名 → 第26回 31カ国・地域、9国際機関469名

## 活動内容

災害等の各国共通課題の解決、宇宙利用の拡大、技術協力、青少年教育等の観点から、議論や情報共有を行いつつ、以下の国際協力プロジェクトを推進。

- センチネルアジア (災害管理)
- SAFE Evolution (衛星データ共有)
- Kibo-ABC (国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟の利用促進)
- 宇宙法制イニシアティブ (宇宙の安定的利用)

(参考) 昨年のAPRSAF-26の様子



# APRSAFオンライン2020の開催概要

## 開催趣旨:

- COVID-19を受け、今後の持続可能な宇宙活動や宇宙技術の社会課題への貢献について、多様な分野・セクターの参加者とともに、互いのビジョンを共有する機会を設ける。
- また、昨年の会合(於、名古屋)で合意された、「APRSAF名古屋ビジョン」の実現に向けた取組を確実に継続していく機運の醸成を図り、来年の開催(於、ベトナム)につなげる橋渡しをする。

日時 : 2020年11月19日(木)13時~17時(日本時間)

共同主催: 文部科学省、JAXA、シンガポール宇宙技術協会(SSTL)、  
ベトナム科学技術院(VAST)、インドネシア国立航空宇宙研究所(LAPAN)

テーマ : Sharing Space Visions Beyond Distance  
(距離を超えた宇宙ビジョンの共有)

参加者数: 44カ国・地域 620人 ※第1回 13カ国60名



## ※ 『APRSAF名古屋ビジョン』のポイント

1. APRSAFは、次の25年間を見据えて今後10年間、以下の4つの目標に取り組む。
  - (1) 広範な地上課題の解決の促進
  - (2) 人材育成や科学技術力の向上
  - (3) 地域の共通課題に対する政策実施能力の向上
  - (4) 地域のニュー・プレイヤーの参画促進と多様な連携の推進
2. 地域の新たな関心分野(国際宇宙探査・宇宙科学、産業界との連携)を取り入れ、分科会の再編や新たなイニシアチブの立上げを検討する。

# 主な開催結果

## ○パネルセッション「多様なプレーヤーとのパートナーシップによる持続的な宇宙活動の実現」

モデレータ: 石田真康 SPACETIDE代表理事

パネリスト: 中須賀真一 東京大学教授、岡田光信 アストロスケールCEO、藤原謙 ウミトロンCEO、  
リネット・タン SSTL理事(星)、アリサ・スターキー Oznius創業者(豪)

- 各パネリストの様々な宇宙活動を共有しつつ、例えば、より特徴的なセンサの開発、時間・空間分解能の向上、地上のセンサやデータとの連携など、今後の宇宙ビジネス等の利用拡大に向けたアイデアが紹介された。
- また、このような多様なプレーヤーの参加を促進する観点から、政府や宇宙機関に対しては、顧客として民間ビジネスを支えていくことや宇宙活動に関するルール作りを担っていくことへの期待が示された。
- これらを通じ、今後も、APRSAFが各国の宇宙活動の情報共有、議論、調整の場としてますます機能していくことへの期待が示された。



パネリストによるディスカッションの様子 出典: JAXA

## ○宇宙機関長セッション「困難な時代における宇宙の取り組み」

モデレータ: 山崎直子 宇宙飛行士

パネリスト: 15カ国の宇宙機関長等

- 各宇宙機関の代表者より、新しい生活様式や社会経済活動の維持・発展のため、宇宙機関が担う役割を検討・実施していること、制約が多い中でこそイノベーションが創出されること、またリモートでの活動を支える宇宙技術の重要性が高まっていること等について共有された。



各国の宇宙機関長によるセッションの様子 出典: JAXA

## ○その他

- カントリーレポート: 16カ国が報告。日本は内閣府宇宙事務局(岡村直子審議官)より宇宙基本計画のうち、GNSS、地球観測、超小型衛星、ベンチャー企業参画の促進等の分野における各国との協力可能性について紹介。
- 分科会・イニシアチブ活動報告: センチネルアジア、SAFE、Kibo-ABC、NSLI、ポスターコンテスト
- APRSAF運営委員会からの提案: 分科会の再編、表彰制度の創設



## (参考) 次第

### 1. 開会

### 2. カントリーレポート

昨年11月の前回会合以降の活動状況と今後の計画を中心に、各宇宙機関からの報告。

### 3. パネルディスカッション

「多様なプレーヤーとのパートナーシップによる持続的な宇宙活動の実現」をテーマに、来年の開催に向けて、特に、非宇宙関連企業の関心や参加を促すことを目的とした、産業界、宇宙機関、大学を代表するパネリストによるディスカッション。

### 4. 各イニシアチブからの活動報告

災害管理、衛星データ利用、日本実験棟「きぼう」の国際的利用、各国の宇宙法制整備状況に関する活動報告。

### 5. 宇宙機関長セッション

「困難な時代における宇宙の取組」をテーマに、各国の宇宙機関長によるディスカッション。

### 6. 運営委員会提案

名古屋ビジョン推進のための分科会の再編及び表彰制度の創設につき、運営委員会より提案。